

2009 年度研究プロジェクト「数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究」
Research Project: Japanese Economic History in Comparative Perspective
by Quantitative Analysis

実施期間： 2008～2010 年度（第 2 年次）

Term of the Project: 2008-2010 fiscal years（2nd Year）

研究代表者： 宮本 又郎 国際高等研究所フェロー／大阪大学名誉教授／
関西学院大学大学院経営戦略研究科教授

Project Leader: Dr. Matao MIYAMOYO, IIAS Fellow; Project Representative on the IIAS Planning Board; Professor Emeritus, Osaka University;
Professor, Institute of Business and Accounting, Kwansai Gakuin University

研究目的：

日本における歴史的なマクロ経済成長と、同時に生じたさまざまな制度的変化との因果関係を明らかにすることは、今日の日本経済の力強い再生のために不可欠の思考的基盤となり、その現代的意義は疑いが無い。たとえば、いわゆる戦時経済システムの構築を目指した 1930 年代以降の政治的・経済的諸制度の変更が、戦後の高度経済成長の基盤形成につながったことは、既にさまざまな視角による研究が明らかにしているところである。この 10 年来唱えられつづけた「構造改革」の対象こそは、こうした高成長指向・調整重視の「日本型経済システム」であった。その歴史的根源にさらにメスを入れると同時に、さらにシステム形成以前にはいわゆる「古典的な資本主義」にあったといわれる日本経済の市場の発展に対する知見を増すことは、望ましい将来のシステム構築に大いに裨益すると考えられる。また、日本経済の歴史的経験を諸外国のそれと正確に比較することは、経済の国際化を進める上で誤った先入観や単なる印象論を脱却するために有用であり、そのための研究対象・視角はこれまで以上に多様でなければならない。本研究では、現代経済の分析に用いられる視角や手法の採用によって、経済史学としては最も端的に上記の課題にこたえようとする。すなわち、数量経済史的手法の明示的な使用によって、長期(近世、近代、現代)にわたる日本経済の成長と制度的展開を多面的かつ比較史的に明らかにする。世界史的に位置づけられた日本における長期経済発展の像を、より明確かつ包括的なものにすることによって、持続的成長に適合的な制度と市場の関係を明らかにし、その社会的設計に示唆を与えることを目的とする。研究会の構成メンバーである経済史・経営史研究者の研究対象・視角は、取引制度、教育制度、家族制度、「市場（いちば）」制度、・・・と広範囲にわたり、これらを「制度の比較史的研究」に集約することによって、「社会の未来」、「異文化の接触と理解」という普遍的な課題に対して有意義な知見が得られるものとする。

Objectives:

To make clear the causality of the economic growth and the institutional changes that happened simultaneously in Japan offers the basis of the thought that will lead up to the plentiful recovery of the Japanese economy. To set up such an intellectual base is undoubtedly essential not only to the historians but also to the business men and the policy makers today. For example, further to research the historical origin of the so-called “Japanese Economic System”, that was a result of the restructuring of the institutions in the 1930s and the 40s with the aim of the

transforming the “classic capitalism” into the war-economy and afterwards has been regarded as one of the bases of the Japanese economic miracle after the war and nowadays is exactly the target of the restructuring of the Japanese economy, can be considered to help the establishment of the desirable system in the near future. For the correct and prejudice-free comparison of the Japanese experiences with the foreigners, that is helpful to the globalization of our economy, the variety of the objects and angles of research will be needed. The main purpose of this research projects, whose members have a wide range of research objects and angles of the “institutional” approach, including commerce rules, educational system, family system, real “market” institutions, is to consider the historical significance of the growth and the development of various kinds of institutions over a few centuries from early modern to the present in comparative perspectives by means of application of quantitative methods. The familiar methods in the contemporary economic analysis are to perform best the task. To investigate and explore the image and horizon of a long-term economic development of Japanese economy set in the context of world/global history is believed not only to give the useful suggestion of making a system that is suitable to the sustainable economic growth but also to approach the significant knowledge and stance to universal assignments for mankind such as “the future of society” and “encounter with and understanding of different cultures”.

前年度の研究の概要：

2008年度は9月高等研での夏季コンファレンス（8報告）を中心に、その後12月と2009年3月に準備研究会をそれぞれ東京（東京大学社会科学研究所、2報告）と大阪（大阪大学大学院経済学研究科、3報告）でおこなった。コンファレンス報告においては、主に①マクロ・レベルでみた日本経済（とりわけ農業部門の成長推計）②広義の企業経営に関する多角的な分析（生産性推計、労務管理・技術開発の実証、企業家論）③家族史（家族経済史、小農・農家経営など）の3方面から分析がおこなわれた。これらは総じて、持続的成長における制度と技術、ならびにマイクロ・レベルの経済主体における戦略の重要性を指摘・実証するものであった。このコンファレンスの内容を補完し、あわせて研究上の視野の拡大をはかるため、近代初期の税制度や資金流通に焦点をあてた報告と在来産業に関する研究報告をおこなった。これらにより、近代初期日本における経済システムについてさらに多面的な分析を揃えることができ、その特質を明らかにするための基礎的理解を得た。

Achievement:

In this year we held three meetings; the conference on September (8 readings) and the research meeting on December (2 readings) and on March(2009) (3 readings). The researches have been made mainly from the 3 research angles; the first is the macro-sighted research on Japanese economy (especially on the agricultural sector). The second is the multi-sided investigation into the (business) enterprise (the estimation of labor- and capital productivity, the examination on personnel management and on technological development and biography of entrepreneurs). The third is the family (household) history (family history, peasant economy). The general point is that the reports that were read at the meetings pointed out and proved the significance of the institution, technology and micro-level strategy of the economic actors in the sustained economic growth. On the meetings held on December and March, the papers about the development of tax system in the early modern Japan, historical financial systems and the native industries were read. They completed the achievement of the former papers and made our analyses focus on some historical system of the modern Japanese economy.

キーワード： 数量経済史、経済成長、日本経済、制度的展開、経済政策、生産性

Key Words: quantitative economic history, economic growth, Japanese economy, development of institutions, economic policy

2009年度の研究計画・方法:

- ・参加研究者の多くは既に1970年代・80年代から「数量経済史研究会(略称 QEHI)」「19世紀の会」を組織し、継続的な研究活動によって多大な成果をあげてきた。それらは『数量経済史論集』全4巻(日本経済新聞社、1976-1988年)や『日本経済史』全8巻(岩波書店、1988-1990年、その中国語版は刊行済み、英訳版は現在、Oxford University Press から刊行中)として公刊され、わが国の日本経済史研究を抜本的に革新したものとして評価が定まっている。今回の研究計画では、従来のメンバーが再結集するとともに比較的若い世代の研究者(外国史研究者ならびに外国人研究者も含む)が新しく参加し、1990年代以降における経済史研究の焦点である「制度・組織」「技術形成」「マイクロ経営主体の戦略的行動」の問題を中心に数量経済史的研究を比較史的視野から重ねることにより、2000年代の新しい潮流である「制度の経済史」を「生産性の経済史」あるいは「技術形成の経済史」「マイクロ主体の戦略の経済史」としてより実証史・数量史的に直接的に経済成長に関連する形で精緻化し、一層発展させる。
- ・2009年9月初旬に2泊3日のコンファレンスを国際高等研究所で開催する。これを「年次コンファレンス」と呼称し、研究会活動の中心に置かれるものとする。報告論文(6本程度)は事前に全参加者に送付して報告時間の節約を図り、討論を充実させるよう努める。統一テーマとしては「効率と生産性の比較的研究」を予定しているが、上記目的(経済史研究の望ましい新動向の模索)に照らし、3分の1程度の報告はそれに必ずしもこだわらない自由なテーマとする。また、比較史的視点の重視から、海外の経済史研究の動向紹介や、外国史に関する実証的・数量史的研究を含めるように編成を工夫する。
- ・上記年次コンファレンスの準備と補完のため、東京または大阪でそれぞれ1回ずつ半日程度(報告3本程度およびビジネス・トーク)の定例研究会を実施する。
- ・上記研究会の成果であるペーパーから精選し、論文(報告)集を作成、高等研叢書などの形の公刊を目指す。「制度・組織」「技術形成」「経済主体の戦略」という本共同研究の主要関心事を結ぶものは、手法的には広義の数量経済史であり、切り口・視角としては「生産性」ということになるであろう。この「生産性」という論点に最も直接関連する、序論等の書下ろしを含む4本以上の報告・論文を軸とし、上にあげたキーワードに関連するその他の論点に拠った論稿を加えて、計6-10章程度の構成を考える。

2009年度の研究会開催予定:

定例研究会 2009年12月(開催地 東京都内)

2010年3月(開催地未定 東京または大阪)

年次コンファレンス: 2009年9月初旬(2~6日予定)(於 高等研)

この他、1~2回の準備研究会を随時行なう場合がある。

参加研究者リスト: 18名(◎研究代表者)

氏名	職名等
◎宮本 又郎	国際高等研究所フェロー／大阪大学名誉教授 関西学院大学大学院経営戦略研究科教授
阿部 武司	大阪大学大学院経済学研究科長・教授
天野 雅敏	神戸大学大学院経済学研究科教授
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長・教授
岡崎 哲二	東京大学大学院経済学研究科教授

尾高 煌之助	一橋大学名誉教授
斎藤 修	一橋大学経済研究所教授
澤井 実	大阪大学大学院経済学研究科教授
谷本 雅之	東京大学大学院経済学研究科教授
友部 謙一	大阪大学大学院経済学研究科教授
中林 真幸	東京大学社会科学研究所准教授
中村 隆英	東京大学名誉教授
西川 俊作	慶應義塾大学名誉教授
速水 融	慶應義塾大学名誉教授
鳩澤 歩	大阪大学大学院経済学研究科准教授
廣田 誠	大阪大学大学院経済学研究科教授
松本 貴典	成蹊大学経済学部教授
山本 有造	中部大学人文学部教授

話題提供者リスト：

攝津齊彦	一橋大学経済研究所非常勤研究員
尾関 学	一橋大学経済研究所非常勤研究員
谷山英祐	大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程
高槻泰郎	東京大学大学院経済学研究科博士後期課程
結城武延	東京大学大学院経済学研究科博士後期課程
等	

研究成果報告書： 2012年3月出版予定

担当： 尾池所長

国際高等研究所
研究プロジェクト「数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究」
2008年度第1回研究会プログラム

開催日時：2008年9月3日（水） 9：30～17：30
2008年9月4日（木） 9：30～14：15

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：宮本 又郎 国際高等研究所フェロー・特別委員／大阪大学名誉教授
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授

担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：（24人）

研究代表者	宮本 又郎	国際高等研究所フェロー・特別委員／大阪大学名誉教授 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
参加研究者 （19人）	阿部 武司	大阪大学大学院経済学研究科教授
	** 天野 雅敏	神戸大学大学院経済学研究科教授
	** 猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長・教授
	岡崎 哲二	東京大学大学院経済学研究科教授
	尾高 煌之助	一橋大学名誉教授
	** 斎藤 修	一橋大学経済研究所教授
	澤井 実	大阪大学大学院経済学研究科教授
	谷本 雅之	東京大学大学院経済学研究科教授
	友部 謙一	大阪大学大学院経済学研究科教授
	** 中林 真幸	東京大学社会科学研究所准教授
	鳩澤 歩	大阪大学大学院経済学研究科准教授
	廣田 誠	大阪大学大学院経済学研究科教授
	松本 貴典	成蹊大学経済学部教授
	山本 有造	中部大学人文学部教授
	** 尾関 学	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	摂津 斉彦	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	高槻 泰郎	東京大学大学院経済学研究科大学院生
	谷山 英祐	大阪大学大学院経済学研究科大学院生
	結城 武延	東京大学大学院経済学研究科大学院生

**：スピーカー

話題提供者	粕谷 誠	東京大学大学院経済学研究科教授
（ゲストスピーカー）	深尾 京司	一橋大学経済研究所教授
（4人）	宮島 英昭	早稲田大学商学学術院教授
	谷沢 弘毅	札幌学院大学経済学部教授

プログラム

9月3日(水)

9:30 研究会〔216号室〕

第1セッション 組織と成長の経済史

話題提供者：斎藤 修 一橋大学経済研究所教授

深尾 京司 一橋大学経済研究所教授

演題"Japan's alternating phases of growth and outlook for the future"

10:50 話題提供者：粕谷 誠 東京大学大学院経済学研究科教授

演題「江戸時代の金融ビジネス」

12:05 昼食〔コミュニティホール〕

13:00 研究会〔216号室〕

話題提供者：中林 真幸 東京大学社会科学研究所准教授

演題"Physical strength, human capital, or just talent?

: Transformation of wage scheme in the steel industry of post WWII Japan".

14:15 休憩

14:30 第2セッション ビジネス・ヒストリーへの新しい視角

話題提供者：猪木 武徳 国際日本文化研究センター所長・教授

演題「戦後日本の電子部品工業における人材開発：村田製作所の場合」

15:50 話題提供者：宮島 英昭 早稲田大学商学学術院教授

演題"Equity Markets and Institutions: The Case of Japan"

17:05 ビジネストーク

17:30 けいはんなプラザへ移動(タクシー)

18:30~20:00 懇談会〔けいはんなプラザ内「ラ・セーヌ」〕

9月4日(水)

9:30 研究会〔216号室〕

第2セッション(つづき)

話題提供者：天野 雅敏 神戸大学大学院経済学研究科教授

演題「戦前における日本商社の豪州進出について」.

10:50 第3セッション 家族の経済史

話題提供者：谷沢 弘毅 札幌学院大学経済学部教授

演題「個人計量経済史学研究序説—家族経済史研究への適用可能性」

12:05 昼食〔コミュニティホール〕

13:00~14:15 研究会〔216号室〕

話題提供者：斎藤 修 一橋大学経済研究所教授

尾関 学 一橋大学経済研究所COE研究員

演題「大恐慌期における農家の労働と消費」

配布資料

なし

国際高等研究所
研究プロジェクト「数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究」
2008年度第2回研究会プログラム

開催日時：2008年 12月13日（土） 14：00～16：45

開催場所：東京大学社会科学研究所赤門総合研究棟5階センター会議室
東京都文京区本郷7-3-1

研究代表者：宮本 又郎 国際高等研究所フェロー・特別委員／大阪大学名誉教授
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授

担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：(15人)

参加研究者 (13人)	阿部 武司	大阪大学大学院経済学研究科教授
	岡崎 哲二	東京大学大学院経済学研究科教授
	尾高 煌之助	一橋大学名誉教授
	斎藤 修	一橋大学経済研究所教授
	友部 謙一	大阪大学大学院経済学研究科教授
	中林 真幸	東京大学社会科学研究所准教授
	鳩澤 歩	大阪大学大学院経済学研究科准教授
	松本 貴典	成蹊大学経済学部教授
	尾関 学	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	粕谷 誠	東京大学大学院経済学研究科教授
	摂津 斉彦	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	高槻 泰郎	東京大学大学院経済学研究科大学院生
	谷沢 弘毅	札幌学院大学経済学部教授

話題提供者 (ゲストスピーカー) (2人)	山田 雄久	帝塚山大学経営情報学部准教授
	崔 裕眞	一橋大学経済研究所客員研究員

プログラム

12月13日（土）

14：00 研究会〔東京大学内会議室〕

話題提供者：崔 裕眞 一橋大学経済研究所客員研究員

演題「明治初期租税制度の進化：

再軍備、殖産興業政策をめぐる中央と地方のダイナミックス」

15：10 休憩

15：20 話題提供者：山田 雄久 帝塚山大学経営情報学部准教授

演題「戦近代陶磁器企業の経営発展

—佐賀県有田町香蘭社の経営革新をめぐる—」

16：30～16：45 ビジネストーク

国際高等研究所
研究プロジェクト「数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究」
2008年度第3回研究会プログラム

開催日時：2009年3月8日（日） 13:00～17:30

開催場所：大阪大学大学院経済学研究科法経大学院総合研究棟7階大会議室
豊中市待兼山町1-7

研究代表者：宮本 又郎 国際高等研究所フェロー・特別委員／大阪大学名誉教授
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授

担当所長・副所長：金森順次郎 所長

出席者：(20人)

研究代表者	宮本 又郎	国際高等研究所フェロー・特別委員／大阪大学名誉教授 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
参加研究者 (16人)	天野 雅敏	神戸大学大学院経済学研究科教授
	猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
	尾高 煌之助	一橋大学名誉教授
	斎藤 修	一橋大学経済研究所教授
	澤井 実	大阪大学大学院経済学研究科教授
	谷本 雅之	東京大学大学院経済学研究科教授
	中林 真幸	東京大学社会科学研究所准教授
	鳩澤 歩	大阪大学大学院経済学研究科准教授
	廣田 誠	大阪大学大学院経済学研究科教授
	尾関 学	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	粕谷 誠	東京大学大学院経済学研究科教授
	摂津 斉彦	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	高槻 泰郎	東京大学大学院経済学研究科大学院生
山田 雄久	帝塚山大学経営情報学部准教授	
結城 武延	東京大学大学院経済学研究科大学院生	
崔 裕眞	一橋大学経済研究所客員研究員	
話題提供者 (ゲストスピーカー) (3人)	今城 徹	早稲田大学大学院法学研究科客員研究助手
	木下 俊平	関西学院大学大学院経営戦略研究科大学院生
	橋野 知子	神戸大学大学院経済学研究科准教授

プログラム

3月8日(日)

13:00 研究会〔大阪大学内会議室〕

話題提供者：木下 俊平 関西学院大学大学院経営戦略研究科大学院生

演題「ホワイトカラーの昇進と異動

－A社のキャリア・データを用いた事例研究」

14:10 休憩

14:20 話題提供者：今城 徹 早稲田大学大学院法学研究科客員研究助手

演題「戦前期大規模貯蓄銀行の有価証券投資

－不動貯金銀行、大阪貯蓄銀行、安田貯蓄銀行の事例－」

15:30 休憩

15:50 話題提供者：橋野 知子 神戸大学大学院経済学研究科准教授

演題”Reconsideration of factors for establishment of power-loom

factories in modern Japan: markets, technology and industrial

districts”

17:00～17:30 ビジネストーク

国際高等研究所
研究プロジェクト「数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究」
2009年度第1回（通算第4回）研究会プログラム

開催日時：2009年 9月2日（水） 13：00～17：30
9月3日（木） 9：30～17：20

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：宮本 又郎 国際高等研究所フェロー／大阪大学名誉教授
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
担当所長・副所長：尾池 和夫 所長

出席者：（23人）

研究代表者	宮本 又郎	国際高等研究所フェロー／大阪大学名誉教授 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
参加研究者 （14人）	阿部 武司	大阪大学大学院経済学研究科教授
	天野 雅敏	神戸大学大学院経済学研究科教授
	尾高 煌之助	一橋大学経済研究所客員教授
	斎藤 修	一橋大学名誉教授
	谷本 雅之	東京大学大学院経済学研究科教授
	友部 謙一	大阪大学大学院経済学研究科教授
	中林 真幸	東京大学社会科学研究所准教授
	鳩澤 歩	大阪大学大学院経済学研究科准教授
	廣田 誠	大阪大学大学院経済学研究科教授
	松本 貴典	成蹊大学経済学部教授
	山本 有造	中部大学人文学部教授
	尾関 学	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	高槻 泰郎	東京大学大学院経済学研究科大学院生
	結城 武延	東京大学大学院経済学研究科大学院生
話題提供者 （ゲストスピーカー） （8人）	今泉 飛鳥	東京大学大学院経済学研究科大学院生 日本学術振興会特別研究員 DC
	木村 光彦	青山学院大学国際政治経済学部教授
	白井 泉	大阪大学大学院経済学研究科大学院生
	進藤 修一	大阪大学大学院言語文化研究科准教授
	摂津 斉彦	一橋大学経済研究所 COE 研究員
	深尾 京司	一橋大学経済研究所教授
	安元 稔	駒澤大学経済学部教授
	和田 一夫	東京大学大学院経済学研究科教授

プログラム

9月2日(水)

- 13:00 第1セッション 社会経済史・経営史の達成と展開 座長：尾高煌之助
話題提供者：和田 一夫 東京大学大学院経済学研究科教授
演題「『ものづくりの寓話』をめぐって」
- 14:30 話題提供者：木村 光彦 青山学院大学国際政治経済学部教授
演題「北朝鮮経済史の試み」
- 16:00 休憩
- 16:10～17:30
話題提供者：安元 稔 駒澤大学経済学部教授
演題「19世紀後半イギリス製鉄工業地域における人口移動と労働市場」

9月3日(木)

- 9:30 第2セッション “技術開発の社会経済史” にむけて；ドイツ語圏を中心に
座長・序説：鳩澤 歩 大阪大学大学院経済学研究科准教授
- 9:50 話題提供者：進藤 修一 大阪大学大学院言語文化研究科准教授
演題「19世紀ドイツ化学の発展と教育」
- 10:40 休憩
- 10:50 話題提供者：鳩澤 歩 大阪大学大学院経済学研究科准教授
演題「プロイセン鉄道技術導入における制度の不利益」
- 11:40 質疑応答
- 12:10 昼食
- 13:00 第3セッション 地域と空間の経済史 座長：天野雅敏
話題提供者：深尾 京司 一橋大学経済研究所教授
摂津 斉彦 一橋大学経済研究所COE研究員
演題「戦前期日本の県内総生産と産業構造」
- 14:20 休憩
- 14:30 話題提供者：今泉 飛鳥
東京大学大学院経済学研究科大学院生／日本学術振興会特別研究員 DC
演題「明治後期における機械工業の取引関係と産業集積」
- 15:50 休憩
- 16:00～17:20
話題提供者：白井 泉 大阪大学大学院経済学研究科大学院生
演題「南津軽郡竹館林檎生産購買販売信用組合の販売事業」